

自分のため家族のために 乳がん検診 を受けましょう

早期乳がんの発見には マンモグラフィ併用の乳がん検診が不可欠



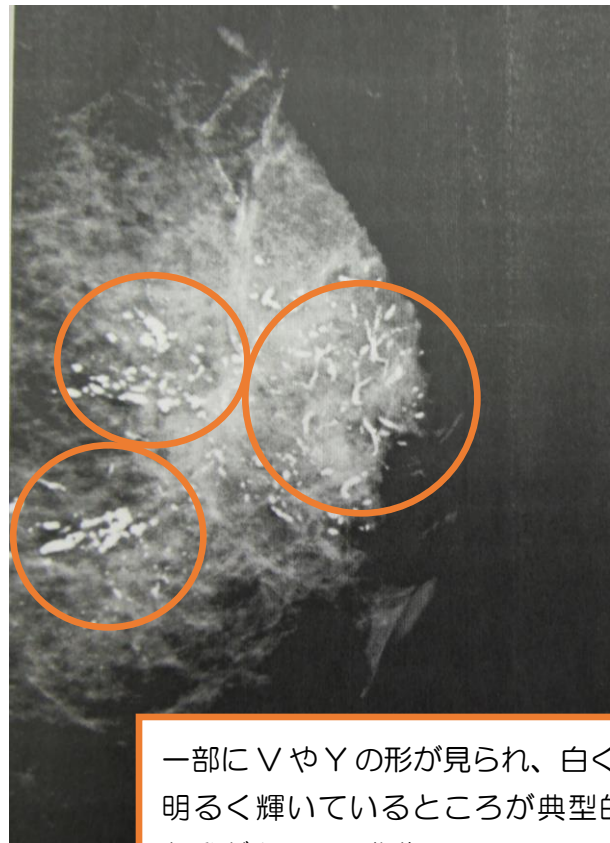
わが国では近年、比較的早期の乳がんは外科手術とそれに続く約半年間の補助薬物療法により5年生存率が90%を超え、80%の患者さんが治る時代となりました。具体的な数字で見ると年間9万人を超える新たな乳がん患者さんが生まれ、その内の1万人超の方が最終的に乳がんで命を落とされているという現実があります。

一般に、乳がんの見つかる確率は乳房エックス線検査のマンモグラフィ併用による乳がん検診で、1000人に3人(0.3%)といわれています。特に、65歳以下の比較的若い年齢層の女性では乳がんは『罹患率・死亡率が共に第一位のがん』であり、乳がんが発見される年齢は45歳～50歳にそのピークがあります。ちなみに、過去2回の全国統計では、山口県での乳がん検診での乳がん発見率は0.5%以上と全国平均より高くなっていました。

乳がんのできる場所は、乳房内に約1000粒ある『小葉単位(直径が1mm程度)』という組織です。『小葉単位』は母乳を作る場所で、その一粒の中には約百万個の乳腺細胞が含まれています。乳がんの99%はこの『小葉単位』の中の1個の乳腺細胞が、がん化することで発生し、1個のがん細胞が誕生した後、約15年の歳月をかけて直径1センチメートル程度(約10億個のがん細胞)の『しこり』へと成長し、ようやく検診で見える大きさになります。(※発生して10年未満の乳がんは直径が1mm以下と小さいため発見できない!)

注意しなければならないのは、筆者の経験では約20%の乳がんが『しこり』としては触れず、唯一マンモグラフィでのみ乳管内の石灰化像として捉えられる乳がんであったことです。マンモグラフィが乳がん検診に不可欠な理由がここにあります。

小野田赤十字病院では早期乳がんを見逃さないために『検診マンモグラフィ読影認定医(4名)』によるダブルチェック体制を敷き、診断から治療までの診療体制を整えています。1センチメートルの大きさのがんを放置すると5年後には生命を奪われてしまうため、若くして発症することの多い乳がんで命を落とさないためにも30歳を過ぎればマンモグラフィによる乳がん検診を少なくとも2年に1回は受ける習慣を身に付けてください。



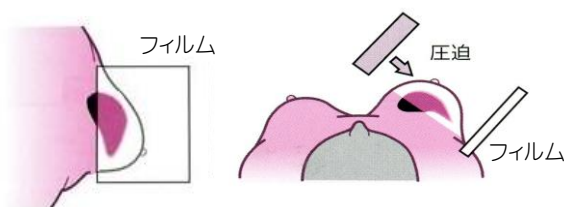
一部にVやYの形が見られ、白く明るく輝いているところが典型的な乳がんの石灰化像

・マンモグラフィについて

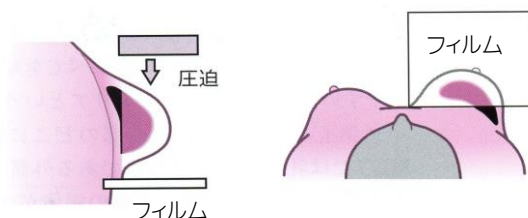
マンモグラフィ(乳房X線検査)について簡単に説明します

- ・下図のように乳房をはさんで平らに圧迫して撮影します。
これはX線で乳房組織をより良くみえるようにするためです。圧迫の際、多少の痛みを感じるがありますが痛みの感じ方は人によって異なります。リラックスすることによって痛みは緩和されることもあります。
- ・生理のある方は生理の始まった日から5～7日目に検査を受けると乳房の張りが少なく、圧迫に伴う痛みが緩和されます。
- ・正確な位置決めが必要となるため、検査時間に約10分を要します。
- ・当院はデジタル撮影のため被曝線量が少なく、健康上の心配はありません。

右乳房の左右方向圧迫撮影



右乳房の上下方向圧迫撮影



・乳がん検診の料金について

山陽小野田市

保険証	金額	制度利用条件(2年に1回)
国民保険	500円	40歳以上の方
社会保険	2,700円	

宇部市

保険証	金額	制度利用条件(2年に1回)
国民保険、 社会保険	1,700円	40～74歳
国民保険 社会保険	400円	75歳以上の方

上記対象者以外の方	9,100円	それ以外の方
-----------	--------	--------

・申込み、問い合わせについて

小野田赤十字病院健康管理センター

平日 8:30～17:00

0836-88-0950へ連絡下さい。